

みなとまち再生

- 鳥羽駅～ドルフィン公園へ高架歩道デッキ設置
- パールビル跡地の活用
- 鳥羽駅～ミキモト～水族館～なかまち～岩崎通への回廊づくり
- ヨットハーバーの誘致
- 市民の声を大切にする「市政懇話会」の定期開催

若者世帯の定住

- 若者世帯の住宅取得に補助金
- ガリバー公園の整備と遊具の充実
- とばっこキッズクラブ設立
(支援プログラムとネットワーク構築)
- 通学補助、医療費無償化を高校生まで拡大
- 学校給食食材の地産地消促進
- 第3子以降の給食費無償化
- 学童保育の受け入れ拡充



赤崎駅での見守りが
10年続きました

鳥羽の暮らしを守る

- 佐田浜駐車場料金値下げ
- 敬老パスなどの高齢者生活支援
- 子育てパスの発行
- 歴史・文化・芸術・健康活動の機会充実
- 鳥羽市内経済循環（ポイント制の導入）
- 海環境と森林環境を守る政策の推進

災害から鳥羽を守る

- 地域防災力の向上
- 避難所（体育館等）の空調化
- 事前復興計画の策定
- 災害に備えたインフラ整備



今、市政への信頼が揺らいでいます。
強いリーダーシップと官民一丸となった未来創造が待ち望まれています。また、市民には、主権者として積極的に市政運営に参画していただく仕組みも必要です。

「みなとまち再生」「若者世帯の定住」
「鳥羽の暮らしを守る」「災害から鳥羽を守る」
を大きなテーマとして、鳥羽を変えましょう！

小竹 あつし

小竹あつし 鳥羽未来への約束

小竹あつし プロフィール

【生年月日】

昭和30年10月15日（69歳）

【学歴】

昭和43年 桃取小学校卒業
昭和46年 鳥羽中学校卒業
昭和49年 伊勢高校卒業
昭和53年 三重大学教育学部卒業

【職歴】

弘道小学校教諭
鳥羽東中学校教諭
長岡中学校教諭
神島中学校教諭
鳥羽東中学校教諭
磯部小学校坂崎分校教頭
鳥羽東中学校教頭
鳥羽市教育委員会学校教育課長
鳥羽小学校校長
鳥羽東中学校校長（平成28年定年退職）
鳥羽市教育長（平成29年～令和6年）

【座右の銘】 在志拓道（志あれば道は拓ける）

【趣味】 野球、ランニング、旅行

【活動報告】 下記のSNSをご覧ください



ホームページ



facebook



Instagram



後援会入会募集

後援会入会のお願い

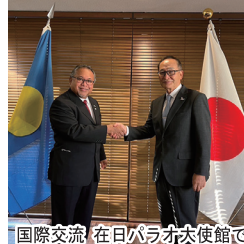
この度の小竹あつし君の決断に大きな期待を抱いております。
決断力と実現力、そして新しいことに取り組もうとする熱意ある小竹君は、現在の鳥羽市にとって必要な人財であると確信をしております。

皆様のご支援、ご協力と後援会のご入会を心よりお願い申し上げます。

小竹あつし後援会 会長 川村光徳



議会での答弁



国際交流 在日バラル大使館で



ユニクロを
中学校準制服として採用



お伊勢さんマラソン参加

鳥羽を変えよに！

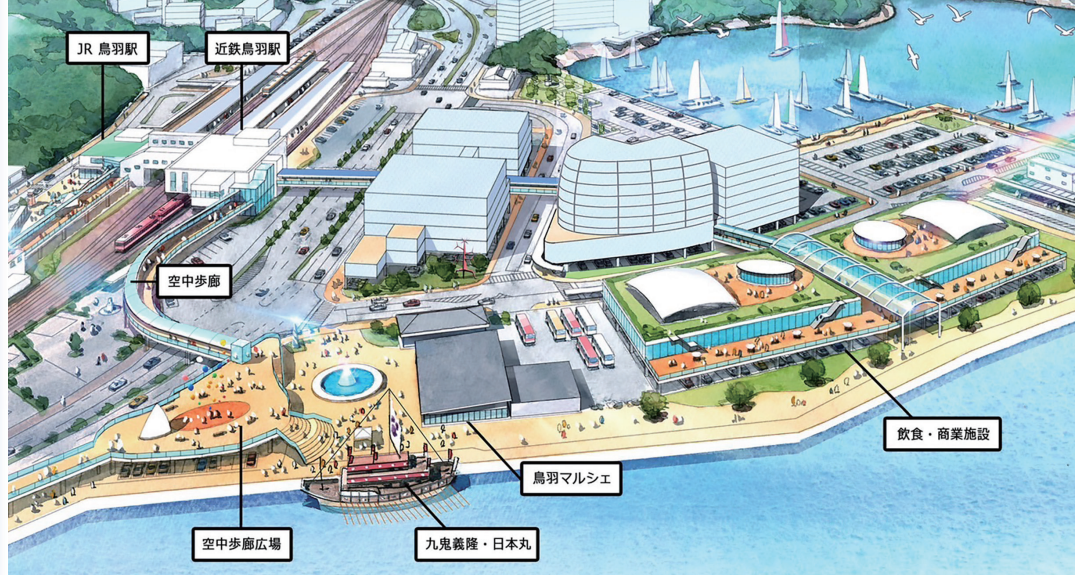
小竹あつし

— 小竹あつし後援会 —

鳥羽市安楽島町1264-1（1F）
kotakekouenkai@gmail.com



決断力と実現力！



1. みなとまち再生

2033年遷宮、2037年リニア開通。鳥羽へ訪客する節目はこれからです。

鳥羽の心臓部・佐田浜地区を、海を魅せる「みなとまち」に再生し、観光客の市内流動に繋がります。

同時に、鳥羽駅～カモメの散歩道～ミキモト～水族館～なかまち～岩崎通の回廊づくりに官民一体となって取り組みます。

圧倒的なポテンシャルを生かし、国際観光都市として高価値で稼げるまちづくりを行います。

2. 若者世帯の定住

若者世帯の市外流出は深刻な鳥羽の地域課題です。急激な少子化もそれに連動しています。

若者が定住できる環境の整備と、観光、農林、水産、製造、商業などの幅広い業種で雇用創出を図ります。

子育て施策は最重要です。経済的支援だけでなく、「鳥羽で子育て・教育が楽しい」と思える環境をつくります。

教育では英語教育や情報教育、地域学習に力を入れ、「国際観光都市」を担う人財の育成に力を入れます。

3. 鳥羽の暮らしを守る

鳥羽市の65才以上の高齢者率は41%を超えました。また、離島生活者は2千6百人。遠隔医療や公共交通、買い物等の利便性を向上させ、経済面でも負担を減らします。鳥羽市内経済循環にも工夫を凝らします。

また、歴史・文化・芸術・健康増進・憩いの場づくりにも注力し、生きがいをもって三世代が笑顔で暮らせるまちを作ります。

海環境や森林環境にも目を向け、安心して自然と共生できるまちづくりをめざします。

4. 災害から鳥羽を守る

南海トラフ地震への心配が年々高まっています。急激な気候変動にも命の危険を感じる日々です。

「事前復興計画」の策定を急ぎます。

各小学校区の運営協議会を核として、地域防災力を強化し、まず命を守る。そして被災後の避難所運営、早期復興に向けての体制づくりを強化します。

能登半島地震では、道路や水道などのインフラが機能なくなりました。教訓に学びます。また主な避難所となる学校体育館の空調化は、こどもたちの日常の学校生活にも欠かせないものになっています。